小樽商大緑丘新聞

発行所
小樽商科大学
緑丘新聞会
小樽市緑3丁目5番21号
電話 代表 ㉓1101
内線 360（新聞会）

編集部員募集
寄稿歓迎

# 智明寮 48時間ハンスト

5・25〜27

## 寮闘争緊迫

# 自治寮防衛に起て

去る5月25日正午から、智明寮新規入寮停止措置解除を訴える48時間ハンストが3名の寮生によって貫徹された。そして今こそ、全学の学生が自らの問題として寮斗争を支援することが求められている。（編集部）

[illegible]

## 女子入寮裁判 和解へ

[illegible]

# 4・27 桑原氏講演報告

## '81・1・23全大中氏「減刑」が分岐点

[illegible]

## 緑丘祭企画

# 「平和を考えるシンポジウム」

今年度の緑丘祭において「82年平和を問うシンポジウム」が行なわれる。このシンポジウムは以下の通り。

●日時 6月26日(土)1時30分

●所 210番教室

●映画

「人間をかえせ」（反核映画）

「世界の人へ」（在日朝鮮人被爆者映画）

●講演

坪井主税（小樽を非核都市にする市民運動・代表）

テーマ「核兵器の恐怖」

林 炯洋（イム・ビュンテク）（在日韓国青年同盟北海道本部委員長）

テーマ「いま朝鮮半島に核戦争の危機が……」

[illegible]

## 焦点

[illegible]

すぐに役立つ便利な資格!!
普通●大型特殊●二輪（小●中）免許
小樽中央自動車学校
☎26−3515
国道5号線　自動車学校前（中央バス停下車）

# 5.23反核東京行動ルポ

寄稿―川端美希子

6月7日よりニューヨークで第二回国連軍縮特別総会が開かれている。これをひかえて、反核運動が今までにない全国的盛り上りをみせた。それの一つの頂点となったのが5・23反核東京行動である。四〇万人（主催者側発表）という空前の参加者を集めた。この反核東京行動に「小樽を非核都市にする市民運動」より参加された川端さんに寄稿していただいた。（編集部）

東京行動
チインの広場

代々木会場・ティーチインの広場

核戦争の現実的な恐怖で目覚めた欧州の人々による反核運動の空前の盛り上りに、あおられるように急速に盛り上り始めた日本の反核運動。その高まりに反比例して、あたしの反核に対する想いはこのところ盛り下る一方だった。安保や防衛費突出を認めることと、平和を望むことが両立するだろうか。反戦を推進し放射性廃棄物の海洋投棄や下請け労働者の被曝を見過した反核は片手落ちじゃないかしら。国連軍縮特別総会に対し余りにも大きな幻想を抱いている間にも戦争への体制は着々とつくられている。教科書改竄・非核三原則の形骸化・平和憲法改悪の動き、リムパック82や[illegible]有事研究の自衛隊演習……それらを不問にしたまま唯「反核」の声だけが大きくなってく。

そんな不安を抱きながら、5月23日あたしは代々木の「ティーチ・インの広場」に居た。「一日本はこれでいいのか市民連合の小田実や自主講座実行委員会の宇井純・日本消費者連盟の竹内直一等が呼びかけたこの集会は、中川五郎さんや[illegible]のり子さんの歌をはさんで一人4分のスピーチが11時から4時半まで休みなしで続いた。各地で反安保・反自衛隊・反基地・反原発に取り組む人々、自らの職場の兵器生産に反対する労働者、ニセ行家、右翼労戦統一と戦う労組員、軍備増強に立ち上った元自衛隊員、えん罪被害者、軍事費拒否のグループ、エコロジスト・消費者団体・婦人団体・労働組合・公害輸出に反対し、韓国・ポーランド・アジア・太平洋との連帯を求める人々。三里塚から、北海道から、広島から、沖縄から、長崎から。小学生から老人まで40数名が延べ二万数千人の参加者に、自分達の生活を通して語りかけた。会場を埋めた参加者も又、多彩だった。沢山の横断幕、ユニークな手造りのゼッケン・服装・衣装…。最後に世界初の非核憲法をもつベラウ共和国代表団がステージに登った。「唯一の被爆国民として世界の平和運動に貢献してきた貴女達が、私たちの生活の場である南太平洋に核廃棄物を捨てて核の加害国になろうとしている今こそ、私たちと共に全世界の非核化に向って進もう」――この時、会場一杯に響いた割れるような拍手を世界中に聴かせたかった。

恐らく、こうした反核世論の盛り上りがなかったら一生会うことがなかっただろう人々が、この日出会った。各々の意識・方法論には大きな差異がある。それは当然だ。互いに異なるという事実を恐れてはいけない。なれあってあいまいにしてもいけない。民主主義って非常に時間のかかるシンドイ作業だ。だからと言って力づくで他を圧倒したり互いに無関心になっちゃったら、なんにもならないんだ。

今、地上では一分間に百万ドル以上が軍備に費やされてる。同じ一分間に4人（一日に5千人、一年に数百万人）の子供が飢えで死んでいる。人類の3分の1は餓死の危険にさらされ、毎年日本の全耕地面積に匹敵する耕地が砂漠化している。だけど、ニヒリスティックになっちゃダメ。その軍備費を半日分ストップさせるだけで、世界中の飢えも疫病も文盲もなくせる。年間の軍備費の5%を使うだけで砂漠化を食い止められる。人間てスゴイと思わない？地球はまだまだ捨てたものじゃないんだ!!

今、あたし達は選択を迫られてる。未来にわたってこの小さな星で互いに愛し合っていくか、人類だけでなく全ての生き物・環境までも巻き添えに破滅への道を進むか。その決定権は国連にも政府のお偉方にもない。というより[illegible]てしまってはいけない。決定権を自分の手に取り戻すこと、それが次の私の運動なの。

なんかね、問題が大きすぎて複雑すぎて見えなくなったりするけど、めんどがって放棄したらオシマイ。あなたまかせの平和から手作りの本物の平和にしなくちゃね。同時代に生れ合せたのは偶然だけど、そこからやさしい平和の関係つくり出して行こうよ。

〈かわばたきみこ　小樽を非核都市にする市民運動代表　公務員〉

---

# 5.27 生協・学生大会 報告

82年度の小樽商大生活協同組合とサークル総連合の活動方針を決定する生協総会と学生大会が、去る5月27日（1時より生協総会、続いて3時より学生大会）開かれた。

生協総会では、今年度生協理事が承認され、昨年度活動報告決算報告がなされ、今年度活動方針が承認された。

学生大会は主催団体のサークル総連合常任委員会の承認、昨年度活動報告・決算報告後、今年度活動方針の最大課題である新サークル会館建設問題が討論された。

新サークル会館の大筋の設計案もでき上がり、あとは予算がつくというところまで話は進んでいる。しかし、大学事務局も説明する通り面積・管理・運営面で、かなりの妥協をしいられた。その意味で新サークル会館の争点はこれで終わったのではなく、新たに始まったと言えるだろう。また、建設場所については600番教室跡地にはこだわらないということであるが、隣の学生会館の使われ方を考えても600番教室跡地利用がこれからの課題になったと言える。

使いものになるサークル会館とは単に建物が新しくなることだけでなく、その空間で学生の主体的活動を自分達で保障し、維持してゆくことを忘れてはならない。

学生大会の最後に竹明寮から新規入寮停止解除に向けてのアピールがあった。唯一の学生寮であり、現状のままで十分使用可能でありながら文部省の政策で入寮できないのは、異常事態である。早期解決が望まれる。

---

# 反核映画全道
## 上映キャラバン
## 7.17小樽上映会

7月17日、反核映画上映会が小樽市民会館において開催される。この上映会は、6月22日旭川を皮切りに道内約30ヵ所で行う「反核映画全道上映キャラバン」の一環として行われるものである。上映される映画は、「人間をかえせ」「広島・長崎」「[illegible]」「世界の人へ」「世界は恐怖する」「[illegible]」の上映である。

現在、反核運動が大きなうねりを示している。しかし、それはあまりに感覚的な面をもっている。核兵器は一度に数十万の人間を殺す。放射能は危険なものである。だから、核はごめんだ、という通り一遍の理論の上に成り立っている。確固とした知識のないままに反核が叫ばれている。根本的なものはそのようなものでよいかもしれない。しかし、今後反核を発展させ、地についた運動を展開していくときに行きづまる。そのためには核の実体を知ることが必要である。

その意味において『世界は恐怖する』は非常に得るものがある。この映画は放射能がどんなものであり、それが生物及び人間にどのような影響をあたえるのかを明らかにしたものである。この映画だけでもみる価値はある。

もう一度、反核を再考してみよう。この映画会はそのいい機会になると思う。

（一：三〇～　六：〇〇～）
場所：市民会館¥300

---

# 小樽再考
## ―7・4都市の修復と再生に関する小樽シンポジウム

7月4日(日)、小樽経済会館にて、「都市の修復と再生に関する小樽シンポジウム」が開催される。

このシンポジウムは、全国の都市に共通する課題である「都市の修復と再生」をテーマに、都市問題に関して住宅、建築、財政、経済、環境、公衆衛生、法制などの幅広い分野からアプローチしておられる、わが国第一線の研究者のグループである「都市研究懇談会」と、全国の水辺の水の都の市民がともに手を結び、都市と水辺が平和共存するまちづくりをめざす「水都再生のための全国会議実行委員会」が主催しておこなわれるものです。開催地に小樽がえらばれたのは、「都市の修復と再生」という現代都市の課題に、いろいろな意味で、小樽がぴったりの条件をそなえているからにほかならない。

このようなシンポジウムが小樽で開催されるのはまたとない機会である。ぜひこのシンポジウムに参加し、一緒に話し合い学び合う中で、わが商大を育んできた小樽のことを今じっくりと考えてみよう。そのことを通じて、小樽において経済、文化、環境、交通、市民生活などの様々な側面であらわれてきている諸問題の解決の糸口を見つけ出し、暮らしやすいまちとして再生する方向をさぐり出そうではないか。

〈プログラム〉
第一部（9：30～12：30）
「都市の修復と再生」
第二部（1：30～5：00）
「小樽の都市再生の方向」
参加費は二〇〇〇円資料代
昼食代を含む

---

緊急アピール

# 徐勝さん20日間ハンストへ

6月4日、「徐兄弟を救う会」より緊急アピールがはいった。在日韓国人政治犯、徐勝氏が20日間の獄中ハンストにはいったとのことである。これは生命を賭した人間としてのギリギリのたたかいである。しかしながらブルジョア・マスコミには一切このことは報道されていない。ここに「緊急アピール」を抜粋転載する。なお、商大竹明寮で抗議ハガキを扱っているので御協力を。（連絡は竹明寮まで）

（編集部）

接触した救う会のメンバーによると、韓国の政治犯徐勝（ソ・スン）徐俊植（ソ・ジュンシク）兄弟のうち、無期懲役で大邱矯導所に収監中の徐勝さんは去る5月28日より20日間の獄中ハンガーストライキにはいった。このハンストは①徐勝さん自身に加えられているきびしい「転向強要」は人権侵害である②弟徐俊植さんが二次の保安監護処分を科されたことは不当である、とする徐勝さんの韓国政府当局への抗議の意思表示である。

言うまでもなく、20日間にもわたる獄中ハンストは徐勝さんの生命すら脅かしかねない。合法的な[illegible]奪われている徐勝さんは、生命を賭して韓国政府当局の非人道的かつ反民主的な政策に抗議しようとしている。

（中略）徐勝さんの今回のハンストは人間としての良心と尊厳を守ろうとするギリギリのたたかいである。それはまた、ひとり徐勝さんのみならず、弟徐俊植さんへの二度目の保安監護処分適用に表われたような、韓国政治犯すべてに対する当局の非道な弾圧に対する抗議である。……（中略）……私たちは内外のすべての人びとに対し徐勝さんのハンガーストライキを注視するとともに、徐勝さんへの人道的処遇と徐兄弟の早期釈放を実現するための支援の行動をとられるよう訴える。

---

日本交通公社
小樽支店　〒047 小樽市稲穂3－9－1（駅前第3ビル）
電話1本で　パンフレット送付からお申込まですべてOK
●国内旅行はエース
●海外旅行はルック
0134(23)3101
●旅行（国内・海外）
●ゼミナール、帰省等
0134(25)7826
旅はあなたの街の交通公社へ

## 第30回緑丘祭

〔行事スケジュール〕
6/23　Beer Party
18：00～21：00
（大集会室）¥250
24　映画「道」14：30～16：30
無料
17：00～19：00
（大集会室）
25　LIVE HOUSE
18：30～20：00
ロブハート（大集会室）
¥1,000（予約前売¥800）
26　平和を考えるシンポジウム
13：30～16：30（210）
Dance Party
18：00～21：00（大集会室）
¥400（コーラ付）
27　野沢那智講演会
14：30～17：00
「映画に見る男の生き方」(210) ¥200
ウルトラ成金クイズ　12：30～
自由参加無料（屋外ステージ）
市民公開講座
26日　「コンピューターと人間
―コンピューターが考え始める日」
14：00～16：30 (213)
「自動車問題のゆくえ」
16：00～17：00 (307)
27日　「経済の現実と経済学の現実の間で」13：00～14：30 (307)

麻雀荘
気のいいマスターの店
国士無双
サービスピカ1ノ
☎33－1372
緑1丁目商大通り（富岡教会前）